2014年度 修了

「ユースワーカー資格取得プログラム」における指導担当者・受講生の学びと相互変容
－実習指導に着目した考察を通して－

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
竹久　輝顕

若者を巡る問題が多様化する昨今，2010年には『子ども・若者育成支援推進法』が施行され，「子ども・若者の育成」と「社会生活を円滑に営むための支援」について明記されている。しかしながら，現状、施策としては後者中心となっており，前者は予算が付きにくい状況にある。また，これらに対応する支援者と，その専門性が求められている。

本研究では，若者の成長を支援する「ユースワーク」に注目し，「ユースワーカー資格取得プログラム」において，実習指導担当者と受講生の関係を見ていき，相互のかかわりにより，いかに学び，変容しているか，そのプロセスを明らかにすることを意図している。

プログラム受講生，指導担当ユースワーカー各3名の協力の元，半構造化面接を実施，3組の受講生－指導担当者の語りを整理し，力量形成や相互性の観点から分析を行った。

それぞれの語りから、以下のプロセスが明らかになった。①まず，指導担当者は，受講生に対して，ユースワークを実践している。関係づくりを意識し，失敗や感情等も含めて正直に出せる関係性を築こうとする。また、自身の感覚や経験を使いながら，受講生の強みやできている点に注目しつつ，ユースワークの観点から返答し，受講生の試行錯誤を促進する。②受講生は，記録の書き方，意識の向け方，考え方，かかわり方，そしてユースワークとは何かを，自身の実践と指導担当者からのフィードバックを参考にしながら，さらに実践し，ふりかえるというサイクルの中で徐々に理解する。それとともに，確認・整理できることで，安心感を得，正直に表現できるようになっていく。③受講生は，フィードバックを利用しながら，試行錯誤し，実践の中で起こることを捉え直す作業を繰り返していく。④指導担当者は，受講生の実践を追体験する形で，自身のかかわりを捉え直し，同様に試行錯誤を繰り返している。⑤相互に試行錯誤を重ねていく中で，より本質的な課題に向き合っていく。その過程で枠組みの転換が起こり，実践の中から知が生成される。それは，自己概念や自己のあり方などの本質なものとなっている。このように，相互の学び・変容につながる要素やプロセスが，本研究より示唆された。

一方で，それぞれ同様の内容や相互関係が語られても，そのことの意味を双方で深めるまで至らない点が，本研究の課題である。その点について、指導担当者，受講生とともに互いの捉え方がどう影響したかを検証していく必要がある。また，本研究では，「ユースワーカー資格取得プログラム」という狭い範囲を対象としているが，このことをユースワークの実践現場に応用すること，その汎用性を実証していくことが必要となるとだろう。